

令和4年度 第2回 静岡市認知症対策推進協議会会議録

- 1 日 時 令和5年3月15日(水) 19時15分～20時30分
- 2 会 場 静岡市役所静岡庁舎 新館3階  
コミュニティ&ダイニングスペース 茶木魚
- 3 出席者(委員) 篁会長、宗副会長、大石委員、大檐委員、北島委員、九藤委員、  
小嶋委員、櫻井委員、鈴木委員、堀越委員、間瀬委員、間淵委員、  
望月委員、吉永委員  
(事務局) 地域包括ケア推進本部 繁田次長、森川次長補佐兼係長、南條係長  
石川副主幹、草谷主査、北原主任保健師、  
寺田主査、神尾主任主事、森山主任主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題  
(1) 令和4年度静岡市認知症疾患医療センター指定更新について  
(2) 令和5年度静岡市認知症施策年間計画(案)について
- 6 その他  
静岡市健康長寿・誰もが活躍のまちづくり計画について
- 7 会議内容  
○開会 資料の確認  
○市挨拶 地域包括ケア推進本部次長 繁田  
○会長挨拶 篁会長  
○会議成立 会議成立の報告(委員15名中14名の出席により会議は成立)

議題

- (1) 令和4年度静岡市認知症疾患医療センター指定更新について  
事務局(寺田主査)  
<資料1により説明>

篁会長

選考結果は、可、不可で判断されるのか。

事務局(寺田主査)

その通り。

簗会長

点数が何点以上と規定しているのか。

事務局（寺田主査）

60点をボーダーラインとしている。

議題

(2) 令和5年度静岡県認知症施策年間計画（案）について

事務局（草谷主査）

<資料2により説明>

簗会長

新たな取り組みを、工夫して実施しようと計画している。

大石委員

私の意見を受け止めてくれてありがたく思う。良い名称で参加しやすい。私の地域でも今年度この事業を実施した。60人くらい参加し、大変良かった。参加者名簿は民生委員が持っており、その後の地域活動につなげていきたい。プログラムもその後の事業につながるものになればよい。(8) チームオレンジ運営支援事業を実施したら、それもその他の事業に繋げていく必要がある。高齢者が増え、認知症対策は今後も充実させていく必要がある。地域づくりを進めていってほしい。

事務局（神尾主任主事）

大石委員の地区で実施。この事業の後に、チームオレンジの立ち上げを意識している。住民意識の醸成を図った上で、次の事業へ繋げていくことを考えて実施している。

簗会長

各事業、繋がるように考えられていることがわかった。

間瀬委員

(11) 「認知症の人にやさしい地域づくり」モデル創出事業について、実施地域の選定する、とあるが、対象は自治会なのか、包括圏域なのか。地域の設定を教えて欲しい。

事務局（石川副主幹）

地域の選定は、チームオレンジを核としているため、包括圏域より小さく考え、小学校区いわゆる小圏域で選定している。来年度1年目であるため、安定して実施できそうな地域の選定を考えている。

九藤委員

介護保険サービス事業者等、地域内の認知症を抱える施設もチームに入れていく必要がある。

事務局（石川副主幹）

地域の支援者としてメンバーに入っている。資料では、地域内専門職と標記している。

北島委員

(12) 静岡型MC I改善プログラム普及事業について、令和5年度はS型デイサービス会場で実施するとのことだが、事業の内容は、1回1時間、10週1クールとある。現在コロナ禍のため、S型デイサービスは、1回1時間、月2回で実施している。S型デイサービス会場では、どう取り入れていけばよいのか。

事務局（石川副主幹）

静岡型MC I改善プログラム普及事業としての頻度は、専門職が考えた理想的な頻度である。常設会場は毎週実施する予定であるが、S型デイサービス会場では毎週は不可能なため、でん伝体操と同様な具合に取り入れて欲しい。可能な限りの取組みを想定している。

北島委員

会場ごと、実施できる内容で取り入れてもらうということか。

事務局（石川副主幹）

その通り。プログラムを取り入れられる範囲で実施して欲しい。

北島委員

S型デイサービスは、ボランティアで運営している。事業を取り入れた場合のフォローアップはあるのか。

事務局（石川副主幹）

事業実施の初回に、リハビリ専門職が出向き対応する。その後の実施は、ボランティアで対応をお願いしたい。しかし、2回目のリハビリ専門職による支援の希望がある場合は、対応していく予定。

櫻井委員

この事業も、単発でやったら意味がない。それぞれの事業を繋げて実施することが大切と考える。資料の一部の内容には、実際に動くメンバーが決まっていない事業がある。若年性やチームオレンジの構成メンバーを標記し、どう繋がるのか、医療、介護分野の関係性を示して欲しい。他に繋がるような事業計画を期待する。

事務局（森川次長補佐兼係長）

一連の繋がりを見せるようにしたいと思う。例えば、若年性認知症施策推進事業においては、県の希望大使の関りがあり、市は会場を貸す後方支援している。また、チームオレンジに対し、立ち上げ支援を実施している。次年度資料は、繋がりを分かりやすく示したい。



間淵委員

若年性認知症施策には、就労の問題が絡んでくる。同僚が50代で発症し、3年間一緒に働いた経験がある。優しさを共有するなど、多くを学んだ。企業と関わる中で、企業が持つ事例を拾い上げ、多くの方で共有して、今後どう対応していけば良いかを考えていけるとよい。

事務局（草谷主査）

就労問題は難しく、できることから進めている。認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に理解のある企業を増やしていくことで、理解を高めていきたい。静岡県若年性認知症支援コーディネーターと協力しながら、市民へ理解を深める活動をしたい。

鈴木委員

MC Iの対象は、MC I患者を対象にしているわけではないのですか。

事務局（石川副主幹）

健常者への予防、MC Iの者への進行を予防する、という2つの意味がある。名称を静岡型認知症MC I予防プログラムとしている。

鈴木委員

この事業に、MC I患者の方をどうやって入れ込んでいくのか。

事務局（石川副主幹）

まだMC Iに気づいていなかったり、受診できていなかったりする方が多いと思われる。市民に幅広く周知して、MC I患者の方を含んでいるであろうと思われる集団に対して、実施していきたい。

鈴木委員

改善したかどうかは、どう評価していくのか。

事務局（石川副主幹）

事業実施前後に身体機能、認知機能を測定する。測定は、常設会場で実施し、分析する。

鈴木委員

常設会場は、固定メンバーで実施するのか。

事務局（石川副主幹）

固定メンバーであるが、途中参加者を断らない。

鈴木委員

やるからには、客観的評価をしっかりと実施する必要がある。

箕会長

評価をするのは難しいかもしれないがやって欲しい。人数の想定はどれくらいか。

事務局（石川副主幹）

15～20人を想定している。

その他

静岡市健康長寿・誰もが活躍のまちづくり計画について

事務局（南條係長）

<資料3により説明>

箕会長

図式化していて分かりやすい。

櫻井委員

P4の1アウトカム指標の中で「誰もが活躍の都市の実現」に関して、20歳以上に占める「仕事あり」の割合において、主婦は仕事無しとみなしているのか。

事務局（南條係長）

報酬のある方を仕事ありとしている。指標がなかなかなく、国民生活基礎調査の指標を使っている。

箕会長

健康長寿・誰もが活躍のまちづくり計画が「富士山型」「宝永山型」で示されていて、静岡市オリジナルのものができている。

本日の会議を終了する。

## 令和4年度 第2回 会議録確認署名

「令和4年度第2回静岡市認知症対策推進協議会 会議録」について、内容を確認しました。

静岡市認知症対策推進協議会 会長

氏名(署名)

豊 泉一